

平成27年3月23日(月)

老球の細道130号

## タフであれ

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

第19回会津フェスティバルが終了した。県外の強豪チームのゲームを観戦する楽しみもさることながら指導者との懇親会も楽しみである。他県の情報や指導法の話をお好きなビールを飲みながら聞けるのは至福の時間となる。

「プレーヤーは昼作られ、指導者は夜作られる」。若い頃、先輩の指導者達から聞かされた名言である。選手は日中の厳しい練習の中で育っていくが、指導者は夜の懇親会や飲み会の席で他の指導者の話を聞きながら勉強して育つ。無駄な時間と思われるだろうが実は役に立っている。飲み会もすてたものではなかった。

私が指導者のかけ出しの頃、福島女子高校(現橘)にO先生(故人)という方がいた。専門は器械体操なのだが縁あってバスケットボール部顧問になった。その先生には何度も練習試合をさせていただいた。夜は必ず飲み会の席が用意され、その席で色々な話を聞かされたことは今でも思い出に残っている。その中のエピソードを一つ紹介したい。

O先生は東京教育大学(現筑波大学)の体操部出身で、大学時代の後輩に日本体操界不世出の天才と讃えられたあの加藤沢男選手がいた。加藤選手は1968年のメキシコオリンピックから3回連続オリンピックに出場し、個人総合2連覇を達成した。また、個人でも獲得した金メダル数は8個を数え、これは日本選手としては歴代NO1である。

O先生が酔うと必ず加藤選手の話をした。加藤選手は学生時代に大学の寮に住んでいた。当時の大学の寮は多人数の大部屋生活であり、コンディションうんぬんなどとは無縁の世界だった。そういう環境の中で加藤選手が不滅の大記録をいかに作ったか。

ある日加藤選手の部屋にO先生などの先輩達が酒を飲んで麻雀をやりに訪れた。翌日インカレの大事な試合を控えていたのにもかかわらず嫌な顔ひとつしないで夜遅くまで一緒に付き合ったという。にもかかわらず睡眠不足などどこ吹く風で、翌日何事もなかったかのように大会に出かけて優勝する。寮に帰って来て先輩にお礼の挨拶をする。

「O先輩ありがとうございました。人間は生身の身体なので、いついかなる時どんな悪いコンディションになるかわかりません。どんなに悪いコンディションでも大会は容赦しません。だから、それに負けないタフな心が必要です。先輩達との夜中の麻雀もタフな心を作るのに大いに役立たせていただきました」

毎回絶好のコンディションで競技することは現実的にむずかしい。生身の身体なので、病気になったり、睡眠不足になったり、人間関係が悪くなったり日々変化する。オリンピック選手といえども例外ではない。そんなストレスでコンディションを崩すようでは世界の頂点には立てない。常に悪コンディションの中で最高の力を発揮する訓練をしていた。

アメリカのハードボイルド作家レイモンド・チャンドラーは「タフでなければ生きていけない。やさしくなければ生きていく資格はない」という有名な言葉を残している。毎日勝負しなければならないスポーツアスリートには絶対必要な生きるスタンスであろう。

映画『007シリーズ』のイギリス情報部員ジェームズボンドはなぜあのように強かったのだろう。それは、危機に陥れば陥るほどジョーク、ユーモア発するタフな心を持ち合わせていたからだと思う。